

『新たな歴史を刻むために』



知内支会幹事長
(知内小学校)
竹嶋 充

「明ける山並み気流が澄んで、流れ豊かな知内川に・・・」で始まる知内讃歌。毎朝七時に防災放送で全町にそのメロディが流れます。その内容どおり、東に津軽海峡、西に大千軒岳を望み、南に矢越岬、そして中央には知内川。河川と森林、海に囲まれ、素晴らしい自然と数々の秘境が点在する知内は、開拓の歴史から八百余年、そして町制施行四〇周年を迎えています。

この伝統ある知内町の教育を支えている理念が「幼・小・中・高一貫教育」。町立幼稚園と小学校四校、中学校、高校の六校園が連携して地域とともに子どもたちを支えています。その原動力として行動する夕陽の会員は現職会員(行政職を含む)が三四名、退職・終身会員が四名の計三八名。今回は、そのうち八名が所属する知内小学校を紹介させていただきます。

知内町役場から知内川沿いに約七百m西の閑静な場所に建つ本校は、開学一二八年の伝統を誇り、現校舎も築四二年の歴史を刻んできました。来年三月にその校史に終止符を打ち、中の川小学校と統合して新たな知内小学校としてスタートをします。新校舎の建設も着々と進み、現在は閉校と開校に向けての準備に職員一丸となつて取り組んでいます。その先頭に立つ大澤照雄校長(S四九卒)は率先して教職員と共に汗しています。その体制を支えるのは、研修の屋台骨・福島一哉教諭(S五七卒)、教務の中心・小西秀一教諭(H二卒)、一年生担任・工藤隆幸教諭(H四卒)、音楽、理科専科・住吉陽子教諭(H六卒)、学校幹事で三年生担任・成澤由貴教諭(H十年)、T・T担当山川友洋教諭(H二三卒)の同窓パワー。創造し行動する知小夕陽会員の実践にご期待ください。

職員室

『自主独往と同窓の絆の思いを胸に』



福島支会
(吉岡中学校)
海野 厚 二

千代の山、千代の富士の二大横綱の出身地で有名な横綱の里・福島町には、小学校三校(福島小・白粉小・吉岡小)、中学校二校(福島中・吉岡中)と福島商業高等学校があります。どの学校も先人の偉業を称え、豊かな自然と文化をいかにしながら「心豊かたたくましい子ども」の育成を目指して特色ある教育活動を展開しています。その中から、吉岡中学校について紹介させていただきます。

吉岡の歴史は古く、鎌倉時代の頃より津軽や南部の人達が海を渡り定着し、江戸時代には津軽海峡横断航路の地理的条件から、さらに多くの人が移り住み賑わいを見せていたそうです。

本校は昭和二二年吉岡村立吉岡中学校として開校し、昭和三〇年からは福島町との合併に伴い町立校として現在に至っています。青函トンネル工事が本格的に始まった昭和三七年には全校三六七名を数えた生徒も工事終了と共に激減し、過疎化と少子化の影響で現在の生徒数は二八名です。校舎の前庭には「自主独往」と刻まれた落成記念碑があります。子ども達は毎朝、その記念碑の前を通りながら登校し、「自主独往」の精神で学習に部活動にと明るく元気に学校生活を送っています。

さて、吉岡中には長谷川和雄校長、斉藤大教諭、高山篤史教諭、工藤敦也教諭の五名の夕陽会員がおります。三〇代半ばの馬力のある三名の先生方は、長谷川校長の下、本校の中心的存在として、子ども達の健やかな成長を願い、「自主独往」の精神で日夜全力で教育活動に励んでいます。また、同窓の絆を大切にする吉中職員は、年に一度の支会総会に毎年全員出席し支会の同窓との絆と交流も深めて頑張っています。

支会だより

地元でがんばる

八雲支会



八雲支会会長
(落部中学校)

小澤 公孝

もうすでに、少し古い情報となりましたが、八雲町は、平成十七年十月に熊石町と合併し、新八雲町として生まれ変わりました。その結果、郡名にも表れているように、日本で唯一、太平洋と日本海に面する、管内最大の面積をもつ町になりました。

八雲町のホームページを開いてみますと、真っ先に目に飛び込んでくるのが、「自然美術館・八雲」のフレーズです。実は、これに続くサブフレーズが存在します。「人と自然が織りなすアーバン模様の街」というものです。八雲町は豊かな自然に恵まれ、美しい四季に彩られた町です。しかし、全国的に有名な酪農業や噴火湾の養殖漁業など豊かな産業の町でもありません。また、渡島半島の中核の町として、商工業や医療・福祉も充実を見せています。豊かな自然を守りながら、都会の機能や魅力を合

わせ持った活気のある町づくりを目指しているのが、この八雲町なのです。

このような町づくりを目指している八雲町にあつて、教育に寄せる期待も大きいものがあります。町内には、小学校十四校、中学校五校、高校二校、特別支援学校一校があり、それぞれの学校が創意と工夫をこらした教育活動を行っています。その中で、中心的役割を担っているのが夕陽の仲間達です。今年度の会員数は二十九名の新会員を含めて九十名となっています。

八雲支会の自慢は、毎年、管内のどの支会よりも早く、総会・懇親会を開いてきたことです。今年度も管内のトップをきって、四月二十六日に、八雲遊楽亭を会場に行われました。本部から川島会長様、支部から天野顧問様にご臨席いただきました。二十一名の新会員を始め、六十名の参加がありました。席上、同窓である岩村教育長様から「夕陽がんばれ！」の激励のご挨拶もいただき、大いに盛り上がりました。三月には、盛大に送別会を実施する予定でおります。

支会だより

五稜支会、近況報告



五稜支会会長
(渡島教育局)

大堂

譲

今春、田中指導主幹をはじめ、四名の会員が異動し、代わって、函館市立亀尾小中学校から藤井指導主幹、檜山教育局義務教育指導班から西村指導主幹、厚真町教育委員会から小田社会教育主事が着任し、本年度、五稜支会は、七名体制で活動しております。

さて、管内の学校においては、子どもや地域の実態に応じた教育実践が進められており、私どもも、子どものために、私生活のために、学校のために、どのような仕事ができるのか考え、日々、業務に取り組んでいるところであります。

藤井指導主幹は、管内の教育委員会をはじめ、各小学校、中学校をほぼ毎日訪問し、大変忙しい毎日をおくっております。

沢田主査は、いつもにこやかにたくさんの業務を進めるとともに、義務教育指導班の指導主

事の健康面を含めて、温かな声かけをいつもしております。

西村指導主事は、楽しいジョークでなごませながら、実践論文や学校訪問など、学校をバックアップしようと、全力を尽くしております。

小笠原指導主事は、生徒指導の充実をめざし、各種研修事業の企画立案運営に邁進しております。

加藤主査は、各事業においてファシリテーターとして活躍し、事業の参加者からも大好評です。

小田社会教育主事は、保護者を対象として講演を何度も行い、保護者の味方として熱弁しております。

このように、五稜支会は全員で七名という小さな組織ですが、一人一人の見方や考え方を互いに感じながら、切磋琢磨し合い、日々の業務に努めております。

今後も、各種事業や学校訪問等で、みなさまのお力をお借りいたしますが、どうぞよろしくお願いたします。

新会員だより

多くの仲間と

仕事ができる喜び



五稜支会
（渡島教育局）
西村 和彦

渡島育ちで、教職経験も渡島のみのわたしは教育行政に入り、網走教育局に赴任したのは、平成十三年四月でした。初めての地、初めての仕事、初めて会う方ばかりで、とまどう毎日でした。

そのような中、声をかけてくださったのが、夕陽網走支部の先生方でした。北見市で夕陽網走支部の学習会及び交流会を開催するので出席してほしいとのことでした。もちろん、学習会の助言付きです。

当日の会場には二十数名の先生方が参加され、熱心に実践交流を行っておりました。その夕陽の仲間との話合いは、わたしには、ふるさとに戻って、共に授業づくりを行っているような喜びを与えてくれました。飛び交う言葉やアクセントが、もうなつかしくて……

渡島にいたときは、夕陽の先輩や仲間がたくさんいて、それが当たり前のように感じていましたが、遠く離れてみると、同窓のいる心強さ、温かさ、ありがたみなどを改めて感じることができました。

今、渡島にあつて、多くの仲間と仕事ができる喜びを味わいながら、子どもたちのために微力を尽くしていきたいと思っています。

よろしくお願いします



五稜支会
（渡島教育局）
小田 将之

平成二年三月に卒業して以来初めて渡島管内で勤務させていただいております。その間、根室管内、胆振管内で小学校の教員として八年間過ごし、平成十一年四月から胆振管内の伊達市、石狩管内の千歳市、再び胆振管内の厚真町で通算九年間、派遣社会教育主事として勤務させていただきました。

振り返ってみますと、道内どこに居りましても、夕陽の先輩、同輩、後輩の皆様を支えられ過ぎしてきました。夕陽渡島は、たいへん大きな存在です。学生時代を過ごした懐かしい街で仕事をさせていだいていいることに感謝するとともに、管内の学校PTA、地域の皆様のお役に立てる仕事ができるよう努めてまいります。

今後とも、どうぞよろしくお願いたします。

初心に戻って



木古内支会
（木古内中学校）
嵐 田 美佳

生まれてから大学院を終了するまでの二十五年間を函館で過ごし、教員としての最初の赴任地は日高管内の平取町でした。知人もおらず、何もわからない土地での新たな生活に大きな不安がありました。日高の土地で活躍されていた夕陽会の先輩方の力添えもあり、生徒達と共に毎日を楽しく過ごすことができ、教員としてたくさんの方を学ぶことができました。

今年の四月から故郷に近い木古内での教員生活をスタートさせることになり、他管での仕事には戸惑いも多々ありました。しかし、諸先輩方の活躍やアドバイスを参考にしながら、初心に戻って仕事に励んでいるところです。

これからも勉強と努力を忘れずに生徒の成長に力を注いでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願致します。

やっとなんだ夢



木古内支会
(木古内小学校)
宮 本 由紀子

平成十四年に函館校を卒業し、その後、札幌で教師とは別の仕事についていましたが、教師への夢を捨てきれず、何度も教員採用試験を受け続けていました。そんな私の元にやっとな合格通知が届き、晴れて念願の教師になることが出来ました。そして平成十八年に木古内小学校に赴任してまいりました。

教師となつて一年半が経とうとしていますが、教師という仕事の難しさを痛感しています。失敗して悩むことも多々あります。でもそんな時こそ初心を思い出そうにしています。そして前向きな気持ちを取り戻し、子ども達と向き合っています。幸いなことに私の周りには、沢山の尊敬すべき先輩方がいます。その先輩方の背中を追いかけてながら日々努力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひ致します。

生徒と共に



北斗支会
(浜分中学校)
五十嵐 久 人

この度、三月に大学を卒業し、育児休暇代替として浜分中学校に赴任してまいりました。毎日忙しいですが、とても充実感のある日々を送っております。

教科が「家庭科」ということで、最初生徒たちからは不思議な目で見られました。半年経った今では、やっとな生徒たちも慣れ、共に学び合っております。普段、生徒たちと共に過ごしている、中学生という難しい時期での関わり方に日々苦戦しております。信頼関係を作る大切さを伝えるために、教師の視点、生徒の視点、両方を忘れずにしていきたいと考えています。生徒とよい信頼関係を築くために。

これからも生徒たちと日々共に成長し、学び合っていくということをお忘れずに、精一杯頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願ひ致します。

新しい世界で



北斗支会
(大野小学校)
鈴木 梨 沙

大学を卒業後、民間企業で六年弱を過ごし、縁あって一月から大野小学校に赴任いたしました。

今までとは全く違う世界に身を置き、順応するのに手いっぱい、あつという間に十ヶ月が過ぎていたという感覚です。

そんな中で常日頃、先生方がどれだけ深く配慮して子供達に指導を行っているかを目の当たりにし、子供達と共に多くを吸収する毎日です。

また試行錯誤の上の自分のアプローチによって、子供の溢れんばかりの笑顔が見れた時、子供に「気づき」を与えることができた時、ここに居る喜びを噛み締めております。

未熟な私を温かく見守ってくださる先生方に深く感謝しながら、これからも努力を重ねていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひ致します。

共に学び、共に感動



北斗支会
(久根別小学校)
三 笠 裕 也

この度、北斗市立久根別小学校に赴任し、早くも半年以上が経ちました。毎日元気な子どもたちと職員の方々に支えられ、大変充実した日々を過ごしております。また憧れであった「教師」という職業の素晴らしさを実感しています。

四月に教壇に立つて、非常に緊張の連続の毎日だったと感じています。それは一日一日の学校生活の中に、子どもたちの小さな成長や発見があり、そうした貴重な時間を見逃すまいと必死だったからでしょう。そのような子どもたちの姿を間近にし、教師としてのやりがいと責任の重さを改めて感じていきます。

これからも、子どもたちと一緒に学び、共に感動できる教師を目指し、日々精進していききたいと思ひます。諸先輩の皆様、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。

二つの感謝



鹿部支会
鹿部小学校
丸山 淳子

前任校は釧路市内の小学校でした。夕方になると職員室には眩しいくらい西日が差し込んできていました。いつも平坦な土地に沈んでいく夕日を眺めながら、西側にある故郷道南への思いを馳せていました。念願叶って四月より鹿部小学校で勤務しております。夕陽の先輩方が大勢いらっしゃって、様々な場面で優しく支えてくださいました。毎日安心して仕事ができることに感謝しております。

十月。学芸会では、約一ヶ月間にわたる練習の成果を子ども達は十二分に発揮してくれました。自分達の頑張りに満足している子ども達の顔が、四月よりもずっと大人びて見えました。教員生活五年目、子ども達の成長を見守っていける仕事に就けたことに、改めて感謝しているところですが。

夕陽会に感謝



森支会
森中学校
近藤 基子

優駿の里日高から、生まれ故郷である渡島の地に赴任して、半年が経ちました。

全く縁のない土地での採用。初めて親元を離れ、いろいろ困っていた私を、公私に渡り助けてくださったのは、夕陽の諸先輩方でした。初対面の方でも、夕陽会員だとわかると、「何かあったらいつでも言ってみよう！」と温かい言葉をかけていただきました。

現在、学校の規模が変わり、わからないことや慣れないことばかりで、いつも周りの先生に助けていただきながら毎日過ごしています。

諸先輩や地域の方などいろいろな方々に助けていただいていることへの感謝を決して忘れず、少しでも子ども達に還元できると思っています。どうぞよろしくお願い致します。

渡島でのスタート



八雲支会
落部中学校
萩原 いづみ

日高で六年間を過ごし、この度渡島への異動となりました。幼いころから函館で過ごしてきた私にとっては何もかもが懐かしく、故郷に帰ってきたのだと渡島管内とはいえ、初めての土地で教員生活七年目を迎えるにあたり当然不安もありました。しかし、町内に同じ夕陽の仲間がたくさんいることは、大変心強く感じられ、またありがたいことなのだと思います。

八雲での教員生活が始まってはや半年、温かい同僚に支えられ、日々成長していく生徒たちと向き合いながら多くのことを学んでいます。学校には、様々な経験を積みながらわずかながら経験は積みながらわずかながら成長していき、確実に成長していく生徒達の姿があります。そんな感動を原動力に頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

なまらいかった！



八雲支会
熊石第一中学校
星野 和明

前任地の苫小牧は、北海道の中でも、比較的なまりの少ないところでした。しかし今は、熊石の子どもたちの言葉と私の函館なまりがうまく調和しています(別に苫小牧で話ができなかったわけではありません)。

赴任したばかりのころは、新しい環境になじむまで、悩んだこともありました。しかし、熊石第一中学校の生徒はとても明るく、私のことを受け入れてくれました。授業でも素直に一生懸命に取り組むので、すぐに「この子たちのために頑張ろう」と気持ち切り替えることが出来ました。

わからないことが多く、同僚の先生方にはまだまだ迷惑をかけていますが、素晴らしい環境に恵まれた毎日を楽しみたい、全力で頑張りたいと思います。「渡島に来られて、なまらいかった！」

終身会員

の声

自遊人十年



昭和三十二年卒 二類
外崎 壽雄

リタイヤして早いもので既に十二年目になり、時の早いのに驚くばかりである。

夕陽渡島の会報に接する時いつも現職中夕陽会渡島支部の会計幹事として末席を汚していた当事を回顧し感無量である。あの当時、支部支部長を中心に良くまとまり活動的で活気あり充実していた夕陽会渡島支部でありました。退職してから夕陽会に縁遠くなり、諸会合にも欠席の状態である。

退職後鹿部町に設置された、北海道立漁業研修所に六十五才まで、第二の仕事として勤務し、その後函館市に転居、現在に至っている。函館市の短期老人大学で二年間学び、色々な職業を経た方々と接しこれからの人生に大きなヒントを得、その事を生かし日々を過ごしている。

唯一の趣味であるアマチュア無線の無線機、周辺機器アンテナ等整備し充実させ本格的に交

信をしている。現在太陽黒点が最小で、電波伝搬があまり良好でないが、太陽黒点が今後徐々に増加していく時期に来ているので期待している。

今年、アマチュア無線の国家試験の二級を何とかクリア出来、国内はもとより国際バンドで世界のアマチュアの方々と世界の平和を願いながら交信を楽しんで行きたいものだと思っている。そのためには健康が第一。毎日の散歩や体操を実行し少しでも長生き出来ればと思う。

追想「教室の窓から」



昭和三十二年卒 二類
中村 正之

一心に筆を走らせる子ども達の姿を横目に、教室の窓の外にぼんやりと目をやる事がある。昔はこの辺は広々とした畑地だったと記憶している。そこに古びた木造の小さな分校があり、同僚とバイクを走らせ訪ねてきた憶えがある。今では当時の面影はなく、住宅地が広がり環境

も一変している。

退職後十三年余になるが、その後の生活設計が殆どなかった割には、これまでに健康面でも様々な峠を越えてきた。その中で最も多くの時を過ごしたのがホテルの一室で十年余り続いた筆耕事務の仕事である。

その間、地域に於ける新町会設立に向けての仕事や、子ども達の登下校時の安全指導など、気の向くままに自由に過ごす事が出来たのも健康であったからである。

しかし、人生には思いがけない事もある。眼の病、黄斑円孔という難病や胸部の激痛を伴う冠動脈狭窄の発症など、二度の入院生活を経験した。それ以来煙草を止め酒も止めている。

二年ほど前から市内の小学校で講師を勤める事になり、週三日を元気な子ども達と接する機会がある。授業の合間にみる明るい教室の窓は、私にはこうした追想に耽る僅かな空間のような気がする。それは現職時代と少し違い、穏やかな気分になれるやさやかな憩いの空間と言えるかも知れない。

いつまでも 趣味を持ち続けたい



昭和三十二年卒 二類
野呂 亮

平成六年に退職して以来、互助会や退職校長会、また、地域の町会の仕事等々、忙しい日々が続いたが、今は、自分の趣味をいかすことができるようになり、健康中心の毎日である。

町会には「パークゴルフクラブ」ができ、クラブ員も五〇代から九〇代に至るまで約四〇名の会員で毎週金曜日に活動している。一日中、青空の下でパークに楽しんでる会員を見てみると、健康を実感できるのは私だけではあるまい。毎週道南のコースを回り、話題はいつもパークの話。特に技術的な話が中心となり、フォームのこと、足の位置、ボールを打つ強さ、ボールの種類など、またプレー中は「はいれー」「ウー、惜しいなあ」とか、「ナイス・ショット!」といった声がかかれ、メタルなスポーツならではのよい雰囲気の中でプレーしている。今回で三回目となる「ミニコ

ンサート」は、約四〇名の団員で運営している函館ドルフィンズ吹奏楽団の演奏会が中道福祉会館で開催され地域住民の好評を博している。

また、春から秋にかけてドライブを楽しみながら山野草の撮影も楽しみの一つである。松山管内でのザゼンソウやシラネアオイ等を見つけた時は興奮状態である。道東方面の湿原めぐりも強く印象に残っている。狭い庭だが山野草コーナーを作り楽しんでいる。



〈新会員自己紹介〉



平成19年度「大懇親会・新会員歓迎会」〈寮歌大合唱〉

終身会員の皆様へ

「平成十九年度 勇退者 激励・感謝の会」を次のように開催いたしますので、ご案内申し上げます。

◎平成二十年二月九日(土) 午後五時より

◎会場 ホテル法華クラブ

◎会費 六千五百円

◎申し込み締め切り 一月十四日(月)

◎申し込み方法 同封の葉書にて

あとがき

新会員及び終身会員の皆様からのご寄稿を特集した、『夕陽渡島』第百三号をお届けいたします。

大変お忙しい中ご寄稿下さいました新会員及び終身会員の皆様、誠に有難うございました。今後も会員の皆様のご協力をよろしく願っています。